

つるまき

グリーンメゾン鶴牧3 高齢化対応委員会



「環の会通信」特別号 5

レインボウブリッジが赤い

この特別号は今回でしばらく休刊と編集者一同考えていました。ところが6月2日「東京アラーム」が発せられ当分の間5月中の生活を延長せざるをえなくなったようです。お茶の会もコーラスもできません。そこで編集者一同で話し合った結果この特別号ももうしばらく発行する事にしました。この特別号は皆さんのお喋りの場の代わりとして企画したものです。誰かと話したりすることは孤立感や孤独感を和らげてくれます。皆さん感じていることや誰かに話したい面白い話を聞かせてください。短くても結構です。原稿を「環の会通信行き」と書いて管理事務所のポストに入れてください。お待ちしております。

グリーンメゾン鶴牧はいま花盛り 5



ヤマボウシ(7号棟南側ベランダから)



ホタルブクロ(7号棟南側)

ヤマボウシ(山法師)は、**ハナミズキ**が散ったのち、5月～6月の今ごろあちこちで咲いています。どちらもミズキ科ミズキ族ヤマボウシ亜族で花も一見似ています。花の中央の塊が本当の「花」の塊で白い4弁は葉が変形した総苞片(そうほうへん)です。名前の由来は、比叡山延暦寺の僧侶の頭と白い頭巾に似ているからだそうです。

今回の「私の1日」は「宣言」期間中にいただいた原稿です。紙面の都合で掲載が遅くなってしまいました。申し訳ありません。でもF. Mさんの1日は今も変わらないことと思います。

私の1日

午前中は食事の後新聞を読みます。活字大好き人間ですから1時間～1時間半かけて読みます。

家事を終えたらテレビを見ることなく散歩に出掛けます。コロナ禍が始まってから散歩コースが変わりました。中央公園の旧富澤家の前をウグイスのさえずりや他の小鳥を目で追いかけて聴きながら歩いていくと、グリーンライブセンターの前に出ます。今は入場禁止なので、手入れの行き届いた草花をながめ、お気に入りにはスマホにおさめます。そのまま歩いていくと白山神社に着きます。散歩のついでに神様に詣でるなど叱られそうですがやはり1日も早い終息を祈願します。ここまでがコロナ禍が始まって加わったコースです。

そのあとスーパーなどに寄り、足早に歩いて帰る時もありますが、疲れている時はバスで帰ります。

昼食を終えたらちょっと昼寝タイムです。午後は情報番組を見たり、映画やドキュメンタリーを見たり、本を読んだりします。ときたまにはケーキを焼いたりします。



私のテレビのお気に入りとお勧めはBS1の「空港ピアノ」「駅ピアノ」という番組です。そこにピアノが置かれ、通りをいく市民がピアノをひく様がとてもステキです。又わたしはグラスゴーやダブリン、オスロといった世界の空港をみるのが好きですし、駅舎も好きなのでとても気に入っている番組です。

夕食は一人暮らしだけど、ていねいに作ることを心がけ、気ままな夜を過ごします。コロナ禍が早く終息すればお礼参りに行かなければならないと思っています。

F. M



「ボブ・ディラン」 作者 藤川巖

都会の道路と建物に囲まれて僕が歌ってきたブルースを捨てることはできなかった。バックスキンのブラウンのジャンパーに両手を入れて、時には恋人と歩くこともあった。

僕の声は美しくないけど、僕の言葉は生きているんだ。これを喪うことはできなかった。いつも僕は自分のスタイルに気を使っていた。

僕は自分が男でもなく、女でもなく倒れそうな人の心に届くように歌を作り、本当に聴いてくれる人にだけ歌を作った。やがて僕の歌をエレキギターで演（や）っている奴等の音は実にいいと思った。力が欲しいと思った。

ただ大きな音でなく何かを伝えるための新しい方法だった。

ロイヤルアルバートホールでガンガン演（や）った。「裏切り者！ユダ！」と言われてもなんともなかった。「嘘つきども！」と返した。その時僕は守るべきものが何だったか知った。

僕の歌は皆のものだ。君は君の心を歌にのせて歌えなよ。

僕は聖者ではないけど、君の心に深くふかくとどまるつもりだ。そして何度でも姿を変えて生きてやろうと思うんだ。

ディランは問いかけではなく、自分で感じて考えなよ、と僕達に言った。

（補注）**ボブ・ディラン**（1941 年・）はユダヤ系アメリカ人のミュージシャンである。2016 年「アメリカ音楽の伝統を継承しつつ、新たな詩的表現を生み出した功績」で、歌手として初めてノーベル文学賞を授与された。



フリーホイーリン・ボブ・ディラン

（自由奔放なボブ・ディラン）

1963 年に発売されたボブ・ディラン 2 作目のレコード・アルバムで、「**風に吹かれて**」など数々の名曲を収録しており、発売後、時代の代弁者として「フォークの貴公子」呼ばれるようになった。ジャケットの写真は 1963 年 2 月ニューヨーク・グリニッジ・ヴィレッジの寒い雪道。この通りのすぐ手前のアパートに当時 22 歳のボブ・ディランと 19 歳の**スーズ・ロトロ**(1943-2011)※が住んでいた。なおこのアパートの近くにはジャズの聖地「**ブルーノート**」ジャズクラブがある。

※1961 年まだ無名のボブ・ディランが 17 歳のスーズ・ロトロと知り合い、ここで 4 年間彼女と一緒に暮らした。彼女はこのアルバムのボブ自作曲の作詞にも影響を与えたアーティストである。

散歩道 中央公園回り

今日はF.Mさんの「私の1日」にある「お気に入りの道」を少し詳しく説明します。「いちよう橋」と「にしおち橋」を渡りグラウンドに沿って行くと図書館の門のあたりから公園の中まで続く鶯や野鳥の聖地が始まります。わたしにとっての今年の初音は3月5日でした。今は見事な鳴き声です。公園の道に入りグリーンライブセンターに向かう道は「県木の道」といいます。日本中の県木が集められているそうです。グリーンライブセンターのところでF.Mさんと別れ、左に行きパルテノン多摩の大階段の前を通ります。パルテノン多摩は改修のため閉館していますが工事が始まる気配は一向にありません。ホールがなくて多摩市の文化はどうなるのかと心配になります。その先の階段を上ると池の畔を歩けます。でも日影があるのでまっすぐ緩い坂を上りましょう。トイレが見えます。その左手の樹木20本余りが切り倒されています。図書館建設のためでしょうか。無残な姿です。桜美林のところから右に行き橋を渡ってブリリアに向かいます。ブリリアではひと月に2回土曜日に「野菜の朝市」が開かれています。西公園に進み、東公園への橋を渡って鶴牧山に向かいゴールです。約3km歩きました。木陰の多い道です。



めいえギャラリー3

「星追いラスカル」



「見据える先には」



